

DAS KAPITAL



次回

第21回「資本論を読む会」は

日時：2020年11月18日(水)

午後6時から。支局・社青同事務所で
第7章 剰余価値率」をやります。

再開した「読む会」に新人が参加!!

10月15日(木)の第20回「資本論を読む会」は、予定通り「第6章 不変資本と可変資本」を読み合わせて質疑・討論しました。

このテーマは、どこかで勉強した気がしませんか？

「新たな価値を生む資本が可変資本」(労働者の労働力が生み出す価値)云々…不変資本は「新たな価値を生まない…」。

今回の「読む会」には、しばらくぶりに新人の参加がありました。初参加にも拘わらず、みんなとの討論・意見交換には不自由なく参加できています(参加者は6人でした)。

いつも書いていることですが、社青同などで「賃労働と資本」や「賃金・価格・利潤」等の学習経験があれば、資本論のこの辺りの文章も「難なく?」「読む会には参加できる」ことが証明されました。もっとも、マルクスの言い方が難解なものには変わりませんが…。

次回やる「第7章 剰余価値率」も、皆さんは基本的な理解は出来ているのではないのでしょうか?今からでも遅くはありません。さあーこれからでも一緒にやりませんか。いつからでも歓迎です。楽しくやりましょう。

☆「資本論を読む会」のこれまでの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

パスワードは不要で閲覧できます。

レポーターから

※マルクスは資本というものを不変資本と可変資本というものに分けています。

- ・工場で新たに生産物を生産することによって、部品や機械に含まれていた価値が移転しています。
- ・これは、前と変わらない価値があるものだから、不変資本とよびます。

※一方、労働者が生きた労働で新しく価値を生み出した分、この部分が新しく生まれたわけです。

- ・変化するもの、これを可変資本という言い方をしています。
- ・労働力は自分の価値以上に価値を生み出します。だから可変資本というのです。

●不変資本と可変資本

- ・不変資本 生産過程でその価値の大きさを変えないもの。c (constant capital) と表す。
- ・可変資本 資本のうち、生産過程でその価値を変えるもの。v (variable capital) で表わす。
- ・剰余価値 m (mehrwert) で表わす。

*資本全体 c と v を合わせた資本全体を C と表わす。

■マルクスは「資本のうち、生産手段すなわち原料、補助材料、および労働手段に転換される部分は、生産過程でその価値の大きさを変えない。」とし、これを「不変資本」と名づけ、c (constant capital) と表しました。

・また、「資本のうち、労働力に転換される部分は生産過程でその価値を変える。この部分はそれ自体の等価物と、これを超えるある超過分である剰余価値とを再生産するのであり、この剰余価値はそれ自身 変動しうるものであって、より大きいことも小さいこともありうる。資本のこの部分は、1つの不変量から絶えず1つの可変量に変化する」として「可変資本」と名づけました。

・可変資本は v (variable capital)、剰余価値は m (mehrwert) で表わし、c と v を合わせた資本全体は C と表記します。

・生産物には必ず「不変資本 c + 可変資本 v + 剰余価値 m」という価値があるのです。(Kai)